

図書館だより



9月号

2023年9月26日
安田小学校図書館

運動会にまっしぐら



運動会まであとすこし、本の中でも運動やチームワークを考え
てみよう！

低学年

『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』

バージニア・リー・バートン/ぶん・え
むらおかはなこ/やく 福音館書店



ちいさなきかんしゃ「ちゅうちゅう」が、「おもい きゃくしゃなんか ひくのはごめんだ。」と逃げ出すお話。「ちゅうちゅうしゅっしゅ」という擬音とともに場面いっぱいに走るきかんしゃを見ていると、思わず自分も「ちゅうちゅうしゅっしゅ」と言って走り出したくなってしまいます。

中学年

『体育がある』

村中李衣/作 長野ヒデ子/絵
文研出版



体育のがあるたびに暗い気持ちになる「あこ」は、とびばこもさかあがりも苦手。そのことを家では思い出したくないのに、ママははりきって「じゃあ、練習しなきゃ」って言う。なんとか体育から逃げようとする「あこ」の独り言がくすくす笑えて、最後はすがすがしい気持ちになれる小説。

高学年

『ぼくらの一歩』

いとうみく/作 イシヤマアズサ/絵 アリス館



30人全員が足をバンドで結んで走る「30人31脚」を題材にした物語。クラスが一丸になれば記録が出ない競技をやることに決めた6年1組だったが、一人一人の考えの違いがきっかけになって、チームは空中分解寸前。大会では目標の八秒台を達成できるのか。

『個性ハッケン!1.スポーツで輝く』

田沼茂紀/監修 ポプラ社



第一線で活躍する人にインタビューするシリーズのスポーツ編。元陸上競技選手やプロ野球監督が、自分の長所や短所がどこなのかを言葉にして子どもたちに届けます。完璧に見えるアスリートが弱い部分をどうキャリアに生かしているのかを知ることができます。

教育実習の先生も本を読んでくださいます。

休み時間に、みんなに読み聞かせ。先生も一緒に。

保護者の皆様へ「親子読書について」

夏休み前の貸し出しで、たくさんの保護者の方とお話をすることができました。今まで皆様と、ゆっくりと対面で本についてお話しする機会がなかったので、とてもうれしく感じました。いただいた声を大切にして、図書館教育を進めていきます。

さて、今回の親子読書ですが「食べること」と「戦争」にかかわる本を読まれた方が増えたと感じました。「食べること」は、給食の残菜に関連付けてあるものが多く、特に読書感想文の課題図書でもあった『給食室のいちにち』(大塚菜生/文 イシヤマアズサ/絵 少年写真新聞社)が学年をこえて読まれていました。

「戦争」は、広島や日本の話がよく選ばれていました。戦後78年がたち、被爆体験をどう引き継いでいくのかについて試行錯誤がなされています。日本の児童書でも時代とともに変化があり、以前主流だった、主人公が直接戦争を体験するという文学が、最近では見られなくなってきています。世代を経るごとに記憶は薄れていくものだと思いますが、ウクライナとロシアの戦争で子どもたちが心を痛めている今、大人が平和について伝えていく意義は大きいと思います。

裏面に親子読書の中からいくつか選んで掲載しておりますのでご覧ください。

■シリーズの本が大好き！（1年生）

1年生にシリーズの本を紹介する授業がありました。紹介したのは『ぐりとぐら』『わにわに』『うまれたよ！』『わんぱくだん』ひさかたチャイルド、『おさる』講談社、『ぞくぞく村』あかね書房などです。1年生でも次々に読めそうな楽しい本ばかりで、1年生は「読みたい！」「続きを読んで！」と声を上げていました。



『うまれたよ!ヘビ』
関懐太郎/写真・文 岩崎書店